

審査意見への対応を記載した書類（7月）

【2】教育課程等に関する意見

人文社会科学研究科 人文社会科学専攻（M）

3つのコースごとのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと、コースに設置する各系及び各系に配置する科目との関係が不明確なので明確にすること。明確にできなければ、コースの在り方を見直し、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに沿った系及び科目配置となるよう適切に修正すること。

（対応）

3つのコースごとのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと、コースに設置されている系及び各系に配置されている科目との関係が明確になるように、本研究科（修士課程）改組資料「設置の趣旨等を記載した書類」の中の「4. 教育課程の編成の考え方及び特色—（2）教育課程編成の内容・特色—1）授業科目の種類と教育カリキュラム編成—②専門科目」欄〔当該書類12頁〕において、3コースのディプロマ・ポリシー〔当該書類9頁を参照〕及びカリキュラム・ポリシー〔当該書類11～12頁を参照〕に沿って各コースに設置される「系」とその中に配置される科目との整合性を明らかにするための詳しい説明文を加える。

以上の対応に併せて、〔文化芸術コース〕〔現代共生コース〕〔政策科学コース〕の3コースのうち、当初の改組計画では〔文化芸術コース〕の「文化財論系」科目に配置していた「音楽学」及び「音楽文化史」の二科目については、「講義等の内容」に照らして〔文化芸術コース〕の「思想・芸術科学系」科目とする方が妥当であると判断したので、「思想・芸術科学系」科目の中に配置する。

（新旧対照表） 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>12ページ</p> <p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(2) 教育課程編成の内容・特色</p> <p>1) 授業科目の種類と教育カリキュラム編成</p> <p>②専門科目</p> <p>専門科目については、本研究科の「人文社会科学専攻」に設置される3コース（「文化芸術コース」「現代共生コース」「政策科学コース」）のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに沿って各コースに「系」を設定し、以下の考え方に立って、それぞれの「系」に相応しい専門科目を配置する（【表5】を参照）。</p> <p>〔文化芸術コース〕</p> <p>「文化財論系」科目</p> <p>埋蔵文化財・民俗・伝統芸能・口承伝承・宗教的造形等、国内外の多様な文化資源を貴重な文化財として学術的に理解するための科目、これらの文化財を人類共通の文化遺産として次世代へと伝えていくことを目的として、その保存活用等について深く学ぶための科目より構成される一連の専門科目群を「文化財論系」科目として配置する。</p> <p>「日本語・日本文学系」科目</p> <p>我が国固有の重要な文化資源の一つに位置づけることのできる日本語の特性及びその歴史について深く理解するための科目、日本語の歴史的展開と不可分</p>	<p>12ページ</p> <p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(2) 教育課程編成の内容・特色</p> <p>1) 授業科目の種類と教育カリキュラム編成</p> <p>②専門科目</p> <p>本研究科の「人文社会科学専攻」に設置される3コース（「文化芸術コース」「現代共生コース」「政策科学コース」）の専門科目群を「系」に分類するとともに、それらを軸とした体系的な教育カリキュラムを編成する（【表5】を参照）。</p> <p>（文化芸術コース）</p> <p>国内外の文化資源を人類共通の文化遺産として次世代に伝えていくための専門知識・技能等の習得を目指す専門科目群</p> <p>文化財論系 日本語・日本文学系 思想・芸術科学系</p>

なかたちで、長い年月を経て発展してきた古典から近現代にいたる文学テキストの特質及びその学術的価値等について学ぶための科目より構成される一連の専門科目群を「日本語・日本文学系」科目として配置する。

「思想・芸術科学系」科目

古今東西の思想・宗教・芸術全般について、それらがもつ学術的価値を文化史的な観点に立って、正しく理解するための科目、及びそれらがもつ現代的な意義について深く学ぶための科目より構成される一連の専門科目群を「思想・芸術科学系」科目として配置する。

[現代共生コース]

「言語科学系」科目

グローバル化の進展にともなって「グローバル・コミュニケーション・ツール」としての英語の重要度が一段と増している状況の中で、長い年月を経て現在の形をとるにいたった英語という言語の特性とその歴史的展開について学ぶための科目、英語を媒介として成立してきた英米の文学テキストを対象とする科目、及び英語をはじめとする言語全般について深く理解するための科目より構成される一連の専門科目群を「言語科学系」科目として配置する。

「歴史地域学系」科目

共生の時代を生きるための正しい歴史認識に立って、古代から近現代にいたる我が国の歴史をはじめとして、ヨーロッパの源流の一つにあたる古代ギリシア・ローマの歴史文化や、中国・アジア・ヨーロッパ等、各国・各地域の時代ごとの歴史について深く理解するための科目より構成される一連の科目群を「歴史地域学系」系科目として配置する。

「国際地域論系」科目

共生の時代を生きるために必要な多文化理解と多様性認識を涵養するための科目にあたる共生社会論、国際関係について深く理解するための科目にあたる国際関係論をはじめとして、多様な地域特性を備えた世界の様々な国や世界各地の社会情勢について理解を深めるための科目より構成される一連の専門科目群を「国際地域論系」系科目として配置する。

「現代法政論系」科目

共生の時代を生きる上で、多様性という観点に立って、各人の人権に配慮した共生社会の実現に向けて、国内外における現行の法制度や社会制度等の仕組みを批判的に検証しつつ、共生社会に相応しい法制度や社会制度の在るべき姿について考えるための一連の専門科目群を「現代法政論系」科目として配置する。

[政策科学コース]

「経済・統計分析系」科目

グローバル化と技術革新によって国内外の経済環境が急速に変化する中で、我が国の経済・産業が直面する状況を理論的・統計的に分析し、的確にすることを学ぶための科目、以上のようにして把握された状況を我が国の経済・産業の発展に活かすための提言等に繋げることを学ぶための科目より構成される一連の専門科目群を「経済・統計分析系」科目として配置する。

「政策評価系」科目

経済・産業の世界的な連動性が一段と強まっている状況の中で、国・地方自治体・企業等の課題をグローバルな視点から捉え、国・地方自治体・企業等が打ち出す政策を的確に評価しつつ、政策の適切な運用方法を提示することを学ぶための一連の専門科目群を「政策評価系」科目として配置する。

「会計情報系」科目

会計や経営の分野でのグローバル化が一段と進んでいる状況の中で「グローバル・スタンダード」に立った会計・経営のあり方を学ぶための科目、会計や経営の分野における可視化された情報の分析を産業の創出や事業の構想に活かすことを学ぶための科目より構成される一連の専門科目群を「会計情報系」科目として配置する。

(現代共生コース)

固有の歴史的・制度的背景や多様な地域特性を備えた世界各地の社会情勢に通じるための専門知識・技能等の習得を目指す専門科目群

言語科学系 歴史地域学系 国際地域論系
現代法政論系

(政策科学コース)

複雑化する政策上の諸課題の理解と政策の分析・評価及びデータ面での環境整備に資する専門知識・技能等の習得を目指す専門科目群

経済・統計分析系 政策評価系 会計情報系

【表5】(新)人文社会科学専攻(修士課程)
「人文社会科学専攻」各コース専門科目一覧

専攻	コース	系	科目名
人文社会科学専攻	文化芸術コース	文化財論系	博物館学 先史考古学 歴史考古学 西洋考古学 民俗学 視覚文化学 考古資料保存論 民俗文化論A 文化財科学 考古学資料調査 文化財保護活用論 古代地中海文化論 民俗文化論B ルネサンス視覚文化論
		日本語・日本文学系	日本古典文学A 日本現代文学A 日本語学A 日本仏教文学論A 日本近代文学論A 日本語学方法論 日本語学資料論 日本古典文学B 日本現代文学B 日本語学B 日本語史 日本仏教文学論B 日本近代文学論B
		思想・芸術科学系	倫理学 東アジア思想史 中国古典学A 美術史 音楽学 現代音楽思想 日本宗教文芸思想 中国宗教思想 日本倫理思想史 中国古典学B 生命環境倫理思想 東アジア思想文化論 視覚芸術論 音楽文化史 地域アート・プロジェクト論
	現代共生コース	言語科学系	一般言語学 英語学 英語構文学 近代イギリス文学 現代イギリス文学 近代アメリカ文学 外国語教育論 言語文書処理 アメリカ現代小説論 言語規格論 現代アメリカ文学 言語類型論 言語構造論 言語統語論 イギリス近代小説論 イギリス現代小説論 近代アメリカ文化論 第二言語習得論
		歴史地域学系	西洋古典学 中国史 南アジア史 イスラーム史 日本古代史 グローバルヒストリー論 近代日本政治思想史

【表5】(新)人文社会科学専攻(修士課程)
「人文社会科学専攻」各コース専門科目一覧

専攻	コース	系	科目名
人文社会科学専攻	文化芸術コース	文化財論系	博物館学 先史考古学 歴史考古学 西洋考古学 民俗学 視覚文化学 考古資料保存論 民俗文化論A <u>音楽文化史</u> 文化財科学 <u>音楽学</u> 考古学資料調査 文化財保護活用論 古代地中海文化論 民俗文化論B ルネサンス視覚文化論
		日本語・日本文学系	日本古典文学A 日本現代文学A 日本語学A 日本仏教文学論A 日本近代文学論A 日本語学方法論 日本語学資料論 日本古典文学B 日本現代文学B 日本語学B 日本語史 日本仏教文学論B 日本近代文学論B
		思想・芸術科学系	倫理学 東アジア思想史 中国古典学A 美術史 現代音楽思想 日本宗教文芸思想 中国宗教思想 日本倫理思想史 中国古典学B 生命環境倫理思想 東アジア思想文化論 視覚芸術論 地域アート・プロジェクト論
	現代共生コース	言語科学系	一般言語学 英語学 英語構文学 近代イギリス文学 現代イギリス文学 近代アメリカ文学 外国語教育論 言語文書処理 アメリカ現代小説論 言語規格論 現代アメリカ文学 言語類型論 言語構造論 言語統語論 イギリス近代小説論 イギリス現代小説論 近代アメリカ文化論 第二言語習得論
		歴史地域学系	西洋古典学 中国史 南アジア史 イスラーム史 日本古代史 グローバルヒストリー論 近代日本政治思想史

		西洋史 日本近現代史 ヨーロッパ古典文化史 中国近世史 南アジア近現代史 西アジア地域史 日本古代地域史			西洋史 日本近現代史 ヨーロッパ古典文化史 中国近世史 南アジア近現代史 西アジア地域史 日本古代地域史
	国際地域論系	フランス地域論 Intercultural Studies 国際関係論 ラテンアメリカ・カリブ地域論 共生社会論 中国社会論 多言語教育論 アメリカ社会論 現代ヨーロッパ論 現代アメリカ論 フランス文化論 Quantitative Analysis of Culture 平和学 民族芸術論 現代オセアニア論 現代中国論		国際地域論系	フランス地域論 Intercultural Studies 国際関係論 ラテンアメリカ・カリブ地域論 共生社会論 中国社会論 多言語教育論 アメリカ社会論 現代ヨーロッパ論 現代アメリカ論 フランス文化論 Quantitative Analysis of Culture 平和学 民族芸術論 現代オセアニア論 現代中国論
	現代法政論系	憲法 民法 刑法 商法 労働法 比較政治制度論 地方自治論 政治学 行政学 人権論 民事法制論 刑事司法論 経済法制論 社会保障法		現代法政論系	憲法 民法 刑法 商法 労働法 比較政治制度論 地方自治論 政治学 行政学 人権論 民事法制論 刑事司法論 経済法制論 社会保障法
政策科学コース	経済・統計分析系	ミクロ経済学 マクロ経済学 経済政策 経済理論史 経済学史 産業組織論 マクロ金融分析 産業発展論 現代企業論		経済・統計分析系	ミクロ経済学 マクロ経済学 経済政策 経済理論史 経済学史 産業組織論 マクロ金融分析 産業発展論 現代企業論
	政策評価系	財政学 労働経済学 国際 経済学 企業統治論 経営 組織論 金融論 地方財政 論 雇用政策論 貿易政策 論		政策評価系	財政学 労働経済学 国際 経済学 企業統治論 経営 組織論 金融論 地方財政 論 雇用政策論 貿易政策 論
	会計情報系	会計情報 財務会計 原価計算 産業創出論 サービスマーケティング論 グローバル経営論 イノベーション論 実証会計 国際財務報告 管理会計 ベンチャー企業論		会計情報系	会計情報 財務会計 原価計算 産業創出論 サービスマーケティング論 グローバル経営論 イノベーション論 実証会計 国際財務報告 管理会計 ベンチャー企業論